



# 平安だより

世田谷平安教会付属 平安幼稚園

2019年 3月号

「いちばんたいせつなこと」

牧師・園長 長村亮介

それから王子さまは、キツネのところに戻った。

「さようなら」王子さまは言った・・・

「さようなら」キツネが言った。「じゃあ秘密を教えるよ。とてもかんたんなことだ。ものごとはね、心で見なくてはよく見えない。いちばんたいせつなことは、目に見えない。」

「いちばんたいせつなことは、目に見えない」忘れな

いでいるために、王子さまはくり返した。  
「きみのバラをかけたがえのないものにしたのは、きみが、バラのために費やした時間だったんだ。」

「ぼくが、バラのために費やした時間・・・」忘れな

いでいるために、王子さまはくり返した。  
「人間たちは、こういう真理を忘れてしまった」キツ

ネは言った。「でも、きみは忘れちゃいけない。きみは、なつかせたもの、絆を結んだものには、永遠に責任を持つんだ。きみは、きみのバラに、責任がある・・・」

「ぼくは、ぼくのバラに、責任がある・・・」忘れな

いでいるために、王子さまはくり返した。  
(サン・テグジュペリ 『星の王子さま』より)

「いちばん大切なことは、目に見えない」。『星の王子さま』で作者が記している言葉として、よく知られています。この「目に見えない、大切なこと」を私は、これまでいろいろなことに譬えて来ましたが、改めて読んでみると、それは「バラのために費やした時間」のことなのだということに、今更ながら気が付きました。キツネは王子さまに「人間たちはもう時間がなくなりすぎて、ほんとうには、なにも知ることができないでいる」とも言っています。これはミヒヤエル・エンデの『モモ』にも通じるものがあります。私たちは「いちばんたいせつ

なこと」をお金に換えてしまっているかも知れません。その「時間泥棒」に骨の髄までしゃぶられる前に、私たちは「いちばんたいせつなこと」が見えるようにならないといけないと思います。そして子どもたちに「いちばんたいせつなものは何？」と、どんな答えが返って来るのか、楽しんで聞くことができるなら、それはとても幸せなことなのではないでしょうか。

子どもたちの大切なもの・・・ 子どもたちはひよつとしたら、私たちに「ないしょ」って答えるかも知れません。彼らの心のような小さな箱がどこかにあって、そこには「どんぐり」とか「蟬の抜け殻」とか、「ビー玉」とか・・・ これは少し旧い子ども「お宝」かも知れませんが。そういうのに夢中になっている子どもたちの目は、いつも輝いているように思います。そして、それは私たち大人も同じではないでしょうか。

昔、私が子どもの頃、夏休みの宿題の自由制作を父が手伝ってくれました。父は元々時計職人でしたので、二人でゼンマイ仕掛けの「動く紙芝居」を作りました。父が「あーでもない、こーでもない」と言いながら、途中で私のことをすっかり忘れてしまったかのように一生懸命に取り組んでくれるのを、私が横から迷惑そうに手を出すと、父は「ちよつと待て」と言って私に触らせてくれませんでした。父はいつも不在で、半分棄てられたような私の子供時代でしたが、その私にとって、父と過ごしたこの時のことは、いつまでも、とても幸せな、掛け替えのない、そして大切な思い出の時間です。これは今の私になって思うことですが、それは父にとっても、私と過ごしたあの夏休みのささやかな時間は、他に換えることのできない大切な時間ではなかったかと思えます。もう三月になります。お友だちはそれぞれに学年が上がり、年少さんは年中さんに。年中さんは年長さんになり、年少さんは年中さんに。年中さんは年長さんになり、年少さんは年中さんに。この「平安幼稚園」での思い出が、お友だちにとって大切な時間となれますように心からお祈りをします。そしてこれからも、大切な時間をたくさん作ってほしいと思います。Ω

# 平安だより

世田谷平安教会付属 平安幼稚園  
2019年 3月号